

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 もみの木保育園太子堂
種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
住所 〒 154-0004
東京都世田谷区太子堂1-12-18
E-mail : taishido@mominoki.ed.jp
Website : _____
児童生徒数：男子 59 名 女子 67 名 合計 126 名
児童・生徒の年齢 0歳～6歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（地域交流)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ
いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

《植物、生き物》

☆ゴーヤのグリーンカーテン

目的 自然のものを利用し、夏の日差しを遮り涼しく過ごす。種から植物を育てる経験をする。

- 5月9日 昨年度取れた種の端を切り、水につけておく。
5月11日 年長児が小さなポットに種を2つずつ植え替える。



- 5月15日 初めての発芽
その後ほとんどすべての芽が出る。



- 5月28日 直植えを行う。苗の状態で購入したものも同時に植える。



夏の期間ゴーヤは順調に成長していった。上へ伸びていくため、横への誘引や整枝が必要であった。

8月終わり頃、種から育てていたゴーヤは枯れてしまった。苗から育てているものは順調に育っていった。

今年度のゴーヤは品種か環境か、実があまりつかなかった。また熟して種を取ろうとしたものの、種の生育が進んでおらず、取れなかった。

子ども達は毎日成長の様子を目に出来ていたため、蔓の成長、花が咲いたこと、実りがあったことにすぐに気づき、友達通し話題にしたり、保育者に知らせて喜んでいた。園の1階部分はかなり葉が茂ったので、日陰になり、エアコンの共用も必要だが体感温度は涼しかった。2階部分の葉の生育がうまくいかなかったので、誘引や追肥の必要性を感じる。

☆野菜

目的 野菜を自ら手をかけ育て、収穫して食べる喜びを味わう。

屋上の小さな畑で夏野菜の栽培を行う。

- 5月10日 苗を畑に植える(ミニトマト、ピーマン、オクラ、枝豆)



水やりを開始。年長児、年中児が順番で行った。
 トマトやピーマンは苦手な子が多い食材だが、自分たちで育てた野菜ということ、また実際に自分たちで調理も行ったことで、意欲的に食べている児が多かった。これをきっかけに苦手だった野菜が食べられるようになり、保護者からも驚きの声が上がっていた。



☆ハーブ
目的 香りのある植物、感触の違う植物に触れ、五感を育てる。



る。



屋上の畑の半分はハーブスペースになっており、様々な種類のハーブを育てている。ハーブを摘み、遊びの中で入浴剤作りを行う。ネットに好きなハーブを選んで入れ、口をリボンで結んだ。家庭に持ち帰り、入浴剤やポプリに使用してもらった。香りの違いに気付き、「この匂いが好き」と自分の好きな香りを選んでいった。形の似た葉でも触ってみると厚みが違っている事を発見し「ふわふわしてて気持ちいいね」等話していた。

☆紙漉き

目的 牛乳パックが新しい髪に再生されることを知る。
 牛乳パックを開き、水に浸してパルプにし、カードづくりを行った。ミントの葉を好きなように飾り付けていった。



グニャグニャとした感触を楽しみながら紙の団子を作り、薄くのばしていく行程に集中していた。本当に髪になるのか半信半疑な様子で、実際に乾いた紙カードを触り、驚きの声を上げていた。

☆アヒル

目的生き物の飼育を通し、思いやりの気持ちを育てる。命の大切さを知る。

2012年5月、2羽のアヒルのひなを育て始める。小さなうちは事務所の段ボールの中で過ごす。帰園の際に事務所に保護者と共に寄り「アヒル見せてください!」とかわいがっていた。

園庭のアヒル小屋に移ってからは園庭遊びの際に様子を見てグングン成長していく様子を喜んでいた。年長児と職員のパアで小屋の掃除、餌やりを行っている。アヒルを若干怖がる子はあるものの、ふんや匂いを嫌がる子はおらず、「僕がお掃除したから、みーちゃんもなわちゃんも(アヒルの名前)も嬉しそうだね」「きれいになって気持ちいいね」と話している。

2013年6月27日 初めて卵が産まれる



幼児クラスで卵をどうするか話し合い、温めてみたい、おいしそうなどの意見が出る。

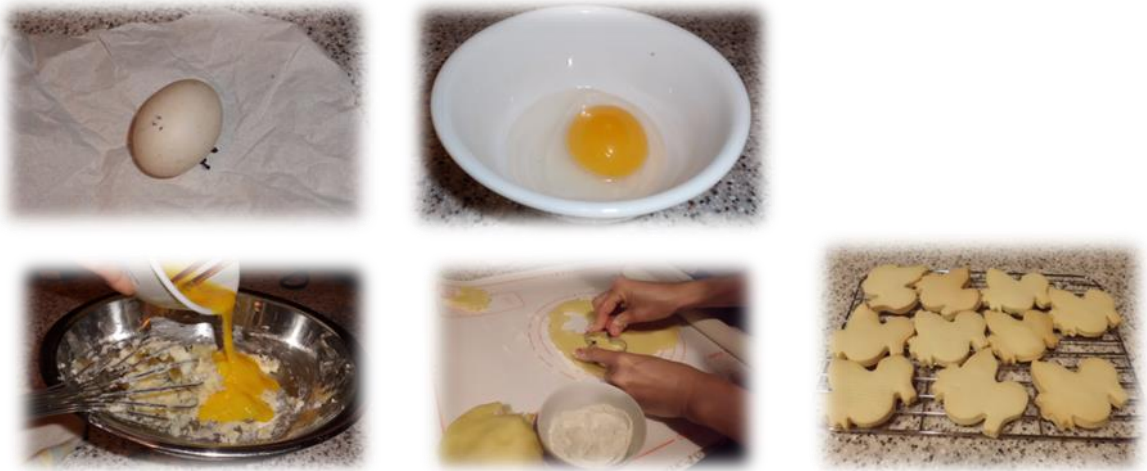
7月3日 ひび割れた卵があったので割って見せる



割れた卵を見ると、かわいそうだから食べたくないという意見は出ず、食べたいか、臭いから食べたくないという意見のどちらかだった。たまご特有の生臭さは感じた。白身の盛り上がりが大きく、黄身は鶏卵よりも大きかった。

☆アヒルの卵でのクッキー作り

完全に火を通せば危険性はないとのことなので、家でクッキーを作り、職員で食べてみた。味も普通のクッキーと変わらない。今後保護者にも知らせ、家庭に持ち帰って調理し、食べてもらうことも検討している。



《地域との交流》

目的 小学校との連携、就学前プログラムを行う。

身近に住んでいる人と交流し共感し合う体験を通して、人と関わる事の楽しさや大切さを味わう。

☆小学校

7月1日

年長児と小学6年生との初めての交流会を行う。

一人ひとり握手をし、自己紹介をする。その後触れ合って遊ぶ集団ゲームを行う。



7月10日 2回目の交流 東日本大震災について6年生がグループごとにまとめてくれた発表を聞く。その後プランターに黄色のコスモスの種を植える。

11月19日 プランターから小学校の植え込みに移り、咲いている黄色のコスモスを見せてもらう。この種がとれたら小学校から被災地に送る。

11月29日 年長児が夏に共同製作で作ったアフリカの生き物を、小学校の作品展の地域のコーナーに展示してもらった。作品展に参加し、自分たちの作品が

あることに喜んでいて、また、小学生が作った作品をじっくりと鑑賞し楽しんでいました。



6年生との交流で年齢差があるので、子ども達は受け身になっている事が多かった。今後、校内の見学や給食体験も取り入れていく予定。

☆花の日

園の行事で花の日礼拝があり、アレンジメントにしたものを地域の方(消防署、交番、デイホーム、小学校、嘱託医、町会長)に届けに行き、日頃の感謝の気持ちを伝えた。

☆感謝祭

園の行事で感謝祭礼拝があり、持ち寄った野菜や果物で幼児クラスがカップケーキを作り、日頃お世話になっている地域の方(消防署、デイホーム、嘱託医、小学校、町会長、広域避難所の大学)へ年長児が届けに行き、感謝の気持ちを伝えた。



☆デイホーム

デイホームの方を保育園にお招きし、年長児がクリスマス祝会で行う降誕劇『いちばんはじめのクリスマス』を披露し、クリスマスプレゼントとして製作したリースなどを渡した。

地域の方との触れ合い、プレゼントのお届けなどを通し、その人が普段どんな仕事をしているのか、みんなとどんな関わりがあるのか考えるきっかけとなった。

《世界を知ろう》

目的 自分の住んでいる国以外にも興味を持つきっかけを作る。

世界に目を向け、当たり前が当たり前でない地域もある事、様々な生活があることを知る。

☆ワールドビジョンによる講習



ワールドビジョンのスタッフの方をお招きし、幼児に向け各クラスに水をテーマに

したお話をして頂いた。分かりやすい映像とお話を通し、小さな子どもが片道4時間かけて水を汲みに行かなくてはならない国がある事、下痢によって命を落とし、5歳まで生きられない子が多い国がある事を知り、真剣な様子で聞いていた。実際に4ℓの水が入ったタンクを持ってみる体験もし、水を大切にしようとする気持ちが育っていた。



☆世界を知ろう



3歳から5歳児が異年齢グループで活動した。グループごとに地域(アフリカ大陸、アジアなど)を決め、その地域にどんな国があるのか世界地図を見ながら調べていった。その中から自分の気になった国の国旗を5歳児は描き、3・4歳児は国旗の塗り絵を行い、白地図に貼っていった。

その後保護者にも協力していただき、それぞれの家庭で決められた一つの国について調べ、園に持ち寄った。それを年長児がまとめ役となり、異年齢のグループでまとめていった。

この活動をきっかけに世界の国旗や位置に興味を持つ児が多く、家で地球儀や地図を買ってもらったと話す児もいた。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）